

令和5年度 かごしま青少年海外研修事業報告書

1	事業概要	1
2	研修内容	
(1)	事前研修	
	香港コース	2
	台北コース	2
(2)	本研修（現地派遣）	
	香港コース	3
	台北コース	7
(3)	事後研修	11
(4)	報告会	11
(5)	懇談会	12
3	研修成果	13
4	所属企業・団体からの意見	14
5	資料	15

1 事業概要

○ 事業目的

アジア経済圏の主要都市である香港、台北に鹿児島県の青少年を派遣し、訪問国の若い企業人等との交流や、現地体験活動等を通して国際的な視野を持ったリーダー育成を図る。

○ 事業内容

(1) 派遣先

香港、台北

(2) 参加資格

- ① 鹿児島県内に居住、又は鹿児島県に所在する企業等に勤務する者等で、概ね18歳以上30歳代前半までの者（学生を含む。）
- ② 定められたテーマに基づく作文の提出があった者
- ③ 研修で得られた知識や経験を、その後の生活又は仕事に活かす意欲を有し、帰国後に研修成果を発表できる者
- ④ 事業終了後も、研修参加者や研修先等とのネットワークの維持に努めるとともに、必要に応じて、次年度以降の研修参加者へのアドバイスを行うなど、本事業の取組に協力できる者

(3) 参加者の自己負担額

3万円

(4) 参加者募集期間

令和5年8月10日（木）～9月13日（水）

(5) 参加者

香港 コース	団長1名	岩井観光開発株式会社 代表取締役社長 岩井 陽典 氏	
	団員14名	社会人12名	学生2名
台北 コース	団長1名	株式会社ビッグファイブ 取締役 川原 健司 氏	
	団員15名	社会人13名	学生2名

2 研修内容

(1) 事前研修

〈香港コース〉

- 日時
令和5年10月14日(土) 13:30~18:00
- 場所
サンプラザ天文館 7階ホール
- 内容
 - ① オリエンテーション
 - ② 過去の団長からの講話
講 師：株式会社クラインベスト 代表取締役 脇野 真梨江 氏
(令和元年度 台北コース団長)
テーマ：現地研修における目標設定と行動計画
 - ③ オンライン講義
講 師：香港貿易発展局大阪事務所 益田 知佳 氏
テーマ：香港・グレーターベイエリア (GBA) の今を知る
 - ④ グループワーク
 - ・ 各班自己紹介
 - ・ 個別研修視察企業の選定
 - ⑤ 渡航手続きの案内 (渡航者情報の登録, 保険の案内等)

〈台北コース〉

- 日時
令和5年10月22日(日) 13:30~18:00
- 場所
サンプラザ天文館 2階 E-5会議室
- 内容
 - ① オリエンテーション
 - ② 過去の団長からの講話
講 師：桃木野総合法律事務所 弁護士 桃木野 聡 氏
(平成28, 29年度 ソウルコース団長, 平成25, 26年度 上海コース団長)
テーマ：現地研修における目標設定と行動計画
 - ③ オンライン講義
講 師：三井住友銀行台北支店 山崎大佑 氏
テーマ：金融機関から見た台湾について
 - ④ グループワーク
 - ・ 各班自己紹介
 - ・ 個別研修視察企業の選定
 - ⑤ 渡航手続きの案内 (渡航者情報の登録, 保険の案内等)

(2) 本研修（現地派遣）

〈香港コース〉

- 日時
令和5年11月21日(火)～11月24日(金)
- 研修日程

月日	研修内容等
11/21 (火)	(移動) 鹿児島中央駅－博多駅(新幹線) 福岡空港発－香港国際空港着(香港エクスプレス) 【集団研修】 (若手企業人等との意見交換会)－①
11/22 (水)	【個別研修】 (企業視察)－② 班ごとに現地企業等を午前・午後で1企業ずつ訪問する。 〈企業視察先〉 A班：E-Shokudo Ltd.(一虎ラーメン)(飲食), KDDI香港支店(通信) B班：ヤマト運輸香港支店(物流), 西原商会香港支店(商社) C班：JCB香港支店(クレジット), MRT(HK)Ltd.(製造)
11/23 (木)	【個人研修】 －③ 参加者が各自で研修テーマを設定し, 自由行動で実施する。
11/24 (金)	(移動) 香港国際空港発－福岡空港着(香港エクスプレス) 博多駅－鹿児島中央駅(新幹線)

○ 内容

① 集団研修(意見交換会)

現地若手企業人等15名との意見交換会を通じて, 同世代の海外企業人の考え方や文化の違いを知り, 参加者の視野を広げる。

※ 現地若手企業人等所属

香港新星交易集團, 合同会社BIROU TABITTO Travel Kagoshima,
Moel Co.,Ltd.等

(感想)

- ・ 香港の方々は, 無駄な残業はしない・させないを徹底しているという話が印象深かった。そのような取組がストレス発散や仕事の効率アップにつながるため, 日本でも必要であると感じた。
- ・ 海外で働いている方は視野が広く, 柔軟性を持っている印象を受けた。言葉はもちろんだが, その土地・国の歴史, 情勢, 国民性を把握し, 日本とは違う考え方, 慣習にも柔軟に対応する能力の大切さを感じた。

② 個別研修（企業視察）

参加者がグループに分かれて、班ごとに異なる業種の企業2社ずつを訪問し、企業の事業紹介や施設見学、意見交換等を行う研修

〈企業視察先及び参加者の主な感想〉

【E-Shokudo Ltd.（一虎ラーメン）】

香港で「一虎ラーメン」「鳥華亭」「MIZUNARA」など日本食の店舗を手掛ける。代表する一虎ラーメンは2014年に1号店オープン。香港の人に合う味付けで瞬く間に行列ができる店に成長。

（感想）

- ・ ラーメンの価格が1杯1,000～2,000円と、日本の倍以上の価格に驚いたが、想像していたより日本の食材を活用したり、鹿児島県産の食材が使われており、親近感が湧いた。
- ・ 香港での日本食トレンドの変遷を学んだ。物価が高い中でも高級志向のお店がトレンドになっており、日本食は香港人に好まれているそうなので、お店作りや商品開発によっては、ビジネスにつながるのではないかと感じた。

【KDDI香港支店】

東京都に本社を置く大手電気通信事業者。「au」ブランドを中心とした携帯電話事業などを手掛け、1988年にグローバル展開する顧客のビジネスを通信ネットワークやシステム面からサポートする目的で現地法人として設立。

（感想）

- ・ 小さいことから何か始めることが大事であることを知ることができた。職場では、全てをデジタル化するのはなかなか難しいので、周囲の方々と話し合いを重ねることもひとつの解決策になると思った。
- ・ 顧客の情報を取り扱う会社のため、建物内の撮影禁止に加え、入室の際はパスポートで本人確認をするほどの厳重さに驚いた。普段入ることのない施設を訪問でき、貴重な経験になった。

【ヤマト運輸香港支店】

香港内・国際引越事業を主な事業とし、香港では約40年の実績をもつ。その他、香港でのEコマース、電子部品、コールドチェーン事業の大手ロジスティクス・ソリューション・プロバイダーとして国際貨物輸送業など様々な事業を実施。

（感想）

- ・ 日本でもなじみの企業だが、現地の企業と差別化を図るため、保冷事業に力を入れ、香港でも活躍していた。海外でも活躍するためには、現地の特色を把握し、自らが持つ強みを最大限に生かすことが重要だと学んだ。
- ・ 施設内の環境維持のために、壁の至る所に分かりやすい表示があり、自社でも真似したいと思った。

【西原商会香港支店】

鹿児島市に本社を置く業務用食品卸商社。香港支店では、アジアマーケットのさらなる発展のための基点として地域に密着した食品を提供している。

(感想)

- ・ 海外で働くということ、現地の方々と協力することについて熱心にお話をしてくださった。たとえ言葉が伝わらないとしても、自分自身の意思を伝えようとする気持ちや心配り・気配りの大切さを学んだ。
- ・ 海外で働く上でのバイタリティーや現地従業員の方々とのコミュニケーションを非常に大切にされており、自身も従業員をまとめる立場として、接し方や気遣い等勉強になった。

【JCB香港支店】

日本のクレジットカード会社。1981年に日本発唯一の国際カードブランドとして本格的な海外展開をスタートさせたJCBの香港支店として、さまざまな決済シーンで安心して利用できる加盟店ネットワークの構築・拡大を図る。

(感想)

- ・ 新規顧客を獲得するための取組として、あえて、原始的なやり方に目を向けるということが印象的だった。自身の業務においても、企画・発信の部分でチラシ作り等原始的な方法を今一度行い、店舗のレイアウトなどお客様が気軽に立ち寄れるような雰囲気作りを提案していきたい。
- ・ キャッシュレスが、若い世代ではなく、高齢者世代に増加傾向が見られ、日本とは真逆であった。日本では、まだまだキャッシュレスが進んでおらず、もし進んだとしても特に高齢者層をどのように支援していくのかが課題であると感じた。

【MRT (HK) Ltd. 】

香港を拠点に電子部品の製造販売、及び輸出入が主な業務内容。40年以上の経験と、香港という場所柄を最大限に利用し、電子部品の他、ギフトアイテム、家庭用雑貨等、顧客のニーズに合ったさまざまな商品の輸出入を取り扱う。

(感想)

- ・ 若手の育成に取り組まれていることをお聞きし、今後は、自身のスキルアップにのみ力を入れるのではなく、同僚、後輩、社員と関わり、より良い職場環境の構築、経験の浅い社員に対する知識の還元、自身の体験を基に相談や協力をしていくことを心がけていきたい。
- ・ 鹿児島のことを知ってもらうためには、歴史を知ることが大事だということをお聞きし、これから、鹿児島を担っていく立場である私たち若い世代が、生まれる前の鹿児島を知り、鹿児島の良さを伝えていくべきだと強く感じた。

③ 個人研修

各自が研修テーマを設定して計画した研修内容を、1日をかけて自由行動で実施する研修

〈参加者の主な研修先〉

A 社会人（金融）

【テーマ】

香港における鹿児島県の捉え方や鹿児島県の企業の進出状況を学び、取引先への情報提供や課題解決に活かす。

【場所】

ジェットロ香港，信金中央金庫香港駐在員事務所，翠徳堂有限公司（小売店）

【研修成果】

各個人研修先での研修を通じて大きく4つの学び・気づきがあった。

1つ目は、香港において日本食は生活の一部であること。小規模なスーパーマーケットでも多くの日本メーカーの食品を目にした。また、至る所に日本飲食チェーン店があり、ここまで日本食が浸透していることは驚きだった。

2つ目は輸出先としての香港の魅力。関税などの制度的優位性，アジアの中心に位置する立地条件に加え、日本に対する理解が浸透している点を現地で感じた。一方で、日本商品は飽和状態にもとらえられたため、今後は、商品の差別化，工夫も求められるのではないかと。

3つ目は現地バイヤーとの商談経験。その場での具体的な商談成立とはならなかったが、商談を実際に行う貴重な経験を得ることができ、日本に対する印象などを直接伺うことができた。

4つ目は現地企業人との交流により刺激を受けることができたこと。海外に在住し言葉の違う国で業務にあたっていらっしゃる方の話はまた違った刺激を受けることができた。

B 学生（建設工学専攻）

【テーマ】

香港における廃棄物の有効利用について学ぶ

【場所】

Tuen Mun Park（都市公園），T・PARK（下水処理施設）

【研修成果】

Tuen Mun Parkは、たくさんの樹木や湖によりビオトープを形成しており、多くの野鳥などの生き物を観察することができた。また、屯門区は都市部であり非常に交通が多いため、公園などの緑地帯が存在することで大気汚染などの環境問題の緩和にもつながることが考えられる。

T・PARKは、ガイドツアーに参加した。特に、浄水設備において、飲料水は海水を、生活用水は雨水を利用しており、それぞれの処理プロセスに係わる設備は興味深いものであった。また、T・PARKは環境教育にも力を入れており、レクリエーションスペースが設けられていた。そこにはアップサイクル製品（廃棄予定であったものに手を加え、価値をつけて新しい製品へと生まれ変わらせる手法）が展示されており、新たな知識も得ることができた。

〈台北コース〉

- 日時
令和5年11月29日(水)～12月2日(土)
- 研修日程

月日	研修内容等
11/29 (水)	(前日移動) 鹿児島中央駅ー博多駅(新幹線) (移動) 福岡空港発ー台湾桃園国際空港着(チャイナエアライン) 【集団研修】 (若手企業人等との意見交換会)ー①
11/30 (木)	【個別研修】 (企業視察)ー② 班ごとに現地企業等を午前・午後で1企業ずつ訪問する。 〈企業視察先〉 A班: TAIWAN OZAX Co.(商社), GoodsMile Logistics(物流) B班: 微風超市(Breeze Super)(小売店), Hotel Amba(ホテル) C班: Wine Bar From A(飲食), Yoxi(運輸)
12/1 (金)	【個人研修】 ー③ 参加者が各自で研修テーマを設定し, 自由行動で実施する。
12/2 (土)	(移動) 台湾桃園国際空港発ー福岡空港着(チャイナエアライン) 博多駅ー鹿児島中央駅(新幹線)

- 内容
 - ① 集団研修(意見交換会)
現地若手企業人等15名との意見交換会を通じて, 同世代の海外企業人の考え方や文化の違いを知り, 参加者の視野を広げる。

※ 現地若手企業人等所属

ARK Solar, 台湾三井物産, エイブル台湾, 三井住友銀行台北支店等

(感想)

- ・ 台湾の, 仕事より家庭を優先する働き方や, 多様性を尊重する社会は, 日本が目指している社会であり, 台湾は日本の先を進んでいると感じた。そして, これらを私と同世代の方が自信を持って話をしている事実には, 驚きと尊敬の気持ちであったと同時に, 自分ではできているかと考えさせられた。
- ・ 台湾の方は, 基本的に自宅で自炊することではなく, 定時に仕事を終わらせて外食へ出かけ, 家族との時間を大切にしているという。定時に仕事を終わらせ, 仕事とプライベートを切り替えている点がとても素敵だと思った。

② 個別研修（企業視察）

参加者がグループに分かれて、班ごとに異なる業種の企業2社ずつを訪問し、企業の事業紹介や施設見学、意見交換等を行う研修

〈企業視察先及び参加者の主な感想〉

【TAIWAN OZAX Co.】

生活産業製品の生産・加工・販売・合成樹脂原料の販売、用紙・板紙・紙二次製品及びパルプの販売、食品等の販売に加え販売製品の輸出入を行う。

（感想）

- ・ 日本の特産品が、自分が思っていたよりも多く台湾で普及されていると感じた。
- ・ お酒をタイムリーに提供できるよう飲食店街近くに事務所を構えているとのことで、顧客に寄り添った経営をされており好感を抱いた。また、「新しいことにチャレンジすることが大切」という言葉に感銘を受けた。

【GoodsMile Logistics】

2021年に設立され、食品専門の三温度帯倉庫を事業としている。複雑でコストのかかる在庫管理を解決するため、食品の在庫管理に特化した三温度帯の物流サービスで成長を続ける。

（感想）

- ・ WMSというシステムで商品ごとにバーコードを発行して商品管理をされており、コードを読み込むことで商品データが一括で表示されるシステムを構築していた。今後弊社でもこのようなシステムを取り入れ、在庫管理を正確且つ簡単に進められる仕組みを構築したい。
- ・ 全ての商品に返品対応をするなど、顧客を大切にしたサービスを提供しており、丁寧な対応から顧客との信頼関係や業務の依頼へと繋がっているのではないかと思った。

【微風超市(Breeze Super)】

日本やヨーロッパ各地から産地直送で季節のフルーツや食品を輸入し、取り揃えている。開放的な空間では、その場で調理した新鮮な肉や海鮮、日本酒も販売。

（感想）

- ・ 新鮮さをアピールするため、店舗入口で、マグロの解体ショーやお米を炊いて実演販売を行っていた。目的に合わせてイベントを定期的に行っているようで、自社でもイベントを活用していきたいと思った。
- ・ 台湾の方は、国産・海外産を問わず、良いと感じたものを購入する事を知った。今後、海外で販路を拡大したい日本の食品メーカーにとって、台湾は非常に可能性のある市場であると感じた。

【Hotel Amba】

中山区に所在。赤外線と紫外線を遮断、高い断熱効果と透明度を備えた複層ガラス（Low-E）や公共空間に設置した温度自動調整のできる省エネ低音ファンなど、エコ重視の設計を採用するほか、休憩やオフィス業務のできる交流ラウンジを各フロアに設置。

（感想）

- ・ 客室内に人数分のミネラルウォーターが準備されていることに驚いた。自社（宿泊業）では、冷蔵庫に準備している水は有料であるため、少しずつ、顧客の立場でサービスを実現したいと思った。
- ・ 従業員のほとんどが、本業とは別に副業をしているという話があった。パート・アルバイトだけでなく、正社員についても副業を認めているそうで、従業員の就業に対する満足度を優先した勤務形態であると感じた。

【Wine Bar From A】

鹿児島のお酒や鹿児島和牛を取り扱うバー。鹿児島の酒造会社が台湾で展開させている。

（感想）

- ・ 台湾での日本の印象が良いため、日本関連のビジネスは開拓しやすい一方で、焼酎は知らない人も多く、現地文化に浸透していけるかが課題とのことだった。新たな文化を持ち込み、認められるまでの高いハードルに立ち向かうアグレッシブさが必要なのだと感じた。
- ・ 酒類はECサイトで販売ができないなど、認知拡大の壁は多々あるが、アプローチ次第では少しずつでも広げられると感じた。自社製品の認知拡大に関しても共通している部分が多く、学びになった。

【Yoxi】

2020年に誕生したTOYOTAグループのタクシー配車サービスアプリ。トヨタ自動車の台湾総代理店、和泰汽車グループが運営を行っている。タクシードライバーも乗客も相互に必要な条件を入力してマッチングを行う。

（感想）

- ・ Yoxiでは、ドライバー（被雇用者）の満足度を重視しており、業界で初のボーナス支給や、燃料等の費用サポートを行う等、ドライバーが安心して楽しく仕事ができるため、利用者にも良いサービスが提供できるということだった。この考えに非常に共感し、従業員の要望にできる限り応えることが自社への帰属意識を高める1つの要因になると感じた。
- ・ 台湾では、出張に伴う精算を代行するサービスが主流と聞き、出張者が領収書を会社に提出するのではなく、移動手段として利用した会社が代行してくれるのは便利なサービスだと感じた。

③ 個人研修

各自が研修テーマを設定して計画した研修内容を、1日をかけて自由行動で実施する研修

〈参加者の主な研修先〉

A 社会人（エネルギー）

【テーマ】

日本と共通点の多い台湾がどのようにして温室効果ガスを削減していくのか、またそのロードマップがどのように自治体や民間企業に浸透しているのか、具体的な取り組み等について知識を得て、日ごろの業務に落とし込む。

【場所】

新竹サイエンスパーク，東京エレクトロン

【研修成果】

経済発展をしながらCN（カーボンニュートラル）を達成するという道のりはそう簡単ではないということを感じた。台湾当局はあらゆる規制によって目標達成するための道筋を立てようとしているようだが、実際の社会には広く浸透してはいない気がした。

ましてや、国の基幹産業が半導体産業である台湾にとって、規制を強めると国の経済発展にブレーキをかけてしまうため、規制のかけ方も慎重に実施する必要があるのではないかと考える。何か革新的な技術が生まれなければCNの達成は難しいと現実を目の当たりにしたと同時に、皆それを言い訳にしてCNに対して何か絵空事のように感じている部分も大きいのではないかと感じた。

鹿児島の一社員としてできる事は小さいかもしれないが、自分にできる仕事に誇りを持ち、未来のクリーンな社会を創造する一員になる事をイメージしながら日々の業務に取り組んでいきたい。

B 学生（教育）

【テーマ】

台湾における英語教育と教員の労働環境について

【場所】

臺北市立中山國民中學（公立中学校），臺北私立泰北高級中學（私立高校）

【研修成果】

授業の雰囲気は日本の授業とあまり変わらなかったが、大きく違ったのは、授業内で使われる母国語の量だった。導入の際に、教員が生徒に質問を投げかけた後も、英語で話すことを強制していなかった。その理由を授業後、教員に尋ねてみると、「コミュニケーションを重要にして授業を進めているため、母国語から英語に変わる流れを大切にしており、まずは自分の考えを発言できるようになることが重要である」と話してくださった。

生徒誰もが発言しやすい雰囲気作りは非常に大切であり、それが授業の盛り上がりにも影響する。生徒が間違いを怖がらずに発言できる雰囲気作りは、教員の明るさやテンションにも関係していると思うので、これからの模擬授業などで明るい雰囲気作りを意識していきたい。

(3) 事後研修

〈香港コース，台北コース合同〉

- 日時
令和5年12月16日(土) 13:30~16:00
- 場所
サンプラザ天文館 2階 E-6会議室
- 内容
 - ① 過去の参加者（アドバイザー）との座談会
 - ア テーマ
研修を今後の仕事や生活にどう生かしたか，どう生かしていけばよいか
 - イ アドバイザー
 - ・ (H30年度香港コース参加者)
鹿児島ドック鉄工株式会社 小濱 愛海 氏
 - ・ (R元年度台北コース参加者)
鹿児島県中小企業団体中央会 重村 裕美 氏
 - ② グループワーク
研修の振り返り，報告会での成果発表に向けた準備

(4) 報告会

〈香港コース，台北コース合同〉

- 日時
令和6年2月17日(土) 13:30~16:30
- 場所
サンプラザ天文館 7階ホール
- 参加者
46名
(内訳)
 - ・ 今年度参加者 30名
 - ・ 今年度の研修生の所属企業・大学関係者 11名
 - ・ 過去の団長 4名
 - ・ 過去の参加者 2名 (うち1名は今年度研修生の所属企業の上席)
- 内容
 - ① 成果報告（香港コース）
 - ・ テーマ
研修で学んだことを生かして，今後の鹿児島での仕事・学生生活で体現したいことや鹿児島のために取り組みたいこと
 - ・ 形式
各班(A~C班)ごとに，グループ報告→個人研修報告→質疑応答

- ② 講評
香港コース団長：岩井 陽典 氏
- ③ 総評
日本ガス株式会社代表取締役社長/学校法人津曲学園理事長
津曲 貞利 氏
- ④ 成果報告（台北コース）
 - ・ テーマ
研修で学んだことを生かして、今後の鹿児島での仕事・学生生活で
体現したいことや鹿児島のために取り組みたいこと
 - ・ 形式
各班(A～C班)ごとに、グループ報告→個人研修報告→質疑応答
- ⑤ 講評
台北コース団長：川原 健司 氏
- ⑥ 総評
日本ガス株式会社代表取締役社長/学校法人津曲学園理事長
津曲 貞利 氏

(5) 懇談会

〈香港コース，台北コース合同〉

- 日時
令和6年2月17日(土) 17:00～19:00（報告会後に開催）
- 場所
サンプラザ天文館 7階ホール
- 参加者
35名
(内訳)
 - ・ 今年度参加者 26名
 - ・ 今年度の研修生の所属企業・大学関係者 6名
 - ・ 過去の団長 2名
 - ・ 過去の参加者 2名（うち1名は今年度研修生の所属企業の上席）
- 内容
参加者間のネットワーク構築を目的とした交流

3 研修成果

〈香港コース〉

- ・ 香港ならではの特性や消費者のニーズに寄り添った事業・サービスを学んだ。今後は、自社製品の特性を活かした販売や鹿児島県の良さをアピールできるような商品開発を目指していきたい。（社会人・製造業）
- ・ 鹿児島の魅力を再認識することができた。「食」はもちろん、温泉や桜島、ゆったり広々とした街並みなどの観光資源は香港の人工的な夜景とはまた違った魅力があると感じた。これからも県内の企業支援を通じて、鹿児島の発展に少しでも貢献していきたい。（社会人・金融）
- ・ 初めての海外渡航で不安も大きかったが、香港の方々は親切でとても充実した経験となった。香港の企業人は3カ国語以上話すことに衝撃を受けたことや、英語を使ってコミュニケーションがなかなか上手くいかなかった経験から、語学の大切さを感じたので、英語の学習に励みながら、別の言語も少しずつ習得し、グローバルに活躍できる人材となれるよう努めたい。（学生）

〈台北コース〉

- ・ 日本との違いを実際に見聞することで、自分の働き方への理想や、生活の中での考え方を見つめ直すきっかけとなった。また、この研修に参加することで、同世代の鹿児島で働く方々と知り合い、研修中もサポートし合い親しくなることができた。今後もこの出会いや研修で学んだことを大切に、鹿児島の発展や自身のキャリアアップへ繋げていきたい。（社会人・倉庫業）
- ・ 台湾の働き方や多様性に対する考え方、食文化、衛生観念といった台湾文化に触れることで、自分と自分を取り巻く環境を見つめ直すことができた。
また、文化は、人々の心を豊かにさせるものだと思えて感じた。私も、日本や鹿児島の伝統や文化の理解を深め、自分達の文化だけでなく異なる文化も理解し、尊重していきたい。そして、台湾で多くを経験できたという自信を胸に、何事にも挑戦していきたい。（社会人・製造販売）
- ・ 今回の台湾研修がきっかけとなり、日本だけでなく世界に目を向けた動きの必要性を考えさせられた。日本でも飲むだけの嗜好品としてのお茶を伝えるのではなく、大溪老茶廠（現地企業）のように茶に興味を持ってもらえるような、体験型事業やSNS発信等時代に合わせた取組を積極的に行ってきたい。（社会人・製茶業）

4 所属企業・団体からの意見

〈香港コース〉

- ・ 個人研修において、視察先を自分自身で探し、訪れ、学ぶということは、容易に経験することはできないので、それを成し遂げたことで、本人の自信に繋がっているように思う。今後一層、グローバルな商売が加速する中、臆せず前向きに捉え、解決していこうとする姿勢を頼もしく感じる。この貴重な体験を通して得たことを活かし、職場や会社の活性化につなげてくれることを期待している。
- ・ 海外から日本という国（風土）や社会を俯瞰して感じることができ、多くの面で比較や認識をすることができたのではないかと感じる。また、同行した同年代の異なる職場で働く方々と接することで刺激を得たようにも思う。今回の研修を通して得られた知識や体験を自身の業務へ活かし、役立てることで、会社へ貢献できる人材へ成長してくれることを期待している。
- ・ 研修後、言葉がうまく通じなくてもなんとか理解してあげようとする姿勢が芽生え、優しく親切な対応が出来ていた。本人にとって人間的に大きく成長出来たと考える。今後は鹿児島県の発展のため、今回の研修での学びや人脈を生かしていただきたい。

〈台北コース〉

- ・ 短い時間ではあったが、異業種の同年代の方々との交流や異国文化・働き方に触れることで、彼は今後の成長に良い刺激を受けたと確信している。今後の彼の役割は、研修で得た経験を活かし、社内の若手を引っ張っていくこと、広い視野で物事を考え、グローバルで活躍すること。これらの経験が、組織全体の活性化に寄与することを期待している。
- ・ 現地の方々との交流や様々な施設を訪問する事で、文化や価値観の違いを肌で感じる事が出来たようで、観光客の立場で自社に生かせる事を探し一生懸命アンテナを張って吸収しようとする姿勢が窺える。また、この研修を通じて県内企業の方々との交流できたので、今後も異業種間での交流を深めて頂き、自身の成長と鹿児島県の発展に寄与する事を期待している。
- ・ 今回の企業訪問において台湾の国民性や考え方を直に感じる事ができたことは今後の糧となり、社会人生活を送る上でも貴重な体験ができたのではないかと感じる。今回の視察を通して更に自分自身を成長させるヒントを得たかと思う。物事を考え、行動することはどこでも必要な能力なので、今回得た経験をぜひ社内に伝えて活性化を図ってほしい。

5 資料

- ・ 参加者募集チラシ
- ・ 参加者アンケート